

物価高騰等アンケートを昨年度に引き続き実施

2024
11
no.616

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です

支える人を支える 京都の福祉



● 地域で人と人がつながる

こども食堂・居場所づくりをともに ▼6ページ

● 施設の歴史 第3回 白川学園

▼4ページ

もえくさ



T.F

Y この夏、実父の初盆を迎えた。一人暮らしの中、病気を患い、家族による介護が難しくなったことから、数年前から介護施設に入所していたが、体調を崩し、医療機関に転院を繰り返して、天寿を全うした。幸せな生涯だったのではないと思う。

Y 一方で、本人は自身が生まれ育った自宅での生活にこだわり、施設への入所を頑なに拒み続けていた。深夜・日中の家族の負担は大きく、父本人も自分自身の思いと家族の悩みの狭間で揺れ動き、双方にとって本当に苦しい時期であった。最期は自宅で看取ることになったが、父にとって本当に良かったのか自問自答する日々でもあった。

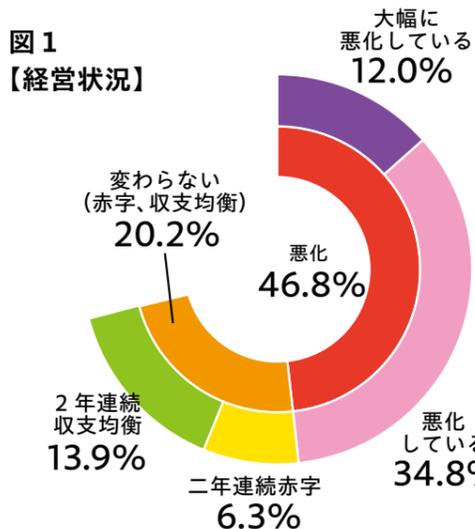
Y 支えていただいた多くの職員の皆様にはコロナ禍の中、父の気持ちを尊重して、できる限りのことをしていただき、感謝しかない。

Y 在宅であれ、施設であれ、同様な環境に置かれている多くの方が福祉の仕事に携わる方々に支えられている。福祉人材は地域社会における福祉サービスの基盤となるものであり、一朝一夕にはいかないが、本会としても引き続き福祉人材の確保・育成・定着に真摯に取り組んでいきたい。

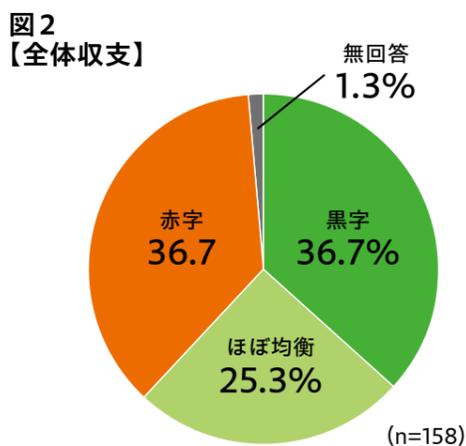
長期化する物価高騰の影響により、 厳しい経営状況が継続

京都府社協では、物価高騰による社会福祉法人・施設の経営状況に関する調査を令和4年度より実施しており、今年度も京都府社会福祉法人経営者協議会と共同で、両団体の会員法人（411法人）を対象に実施しました。（回答法人…158法人 回答率…38.4%）

	回答数	割合
高齢	61	38.6%
障害	41	25.9%
児童	79	50.0%
社会福祉協議会	24	15.2%
合計（複数回答可）	181	—
回答法人数	158	100%



法人の経営状況については「収支状況が大幅に悪化している」が12.0%、「収支状況が悪化している」が34.8%となっています。「変わらない」と回答した法人の中にも「2期連続赤字」が6.3%、「2期連続収支均衡」が13.9%含まれており、全体の67%が



赤字経営 高齡分野50.8% 障害分野43.9% 赤字経営 13.9%含まれており、全体の67%が

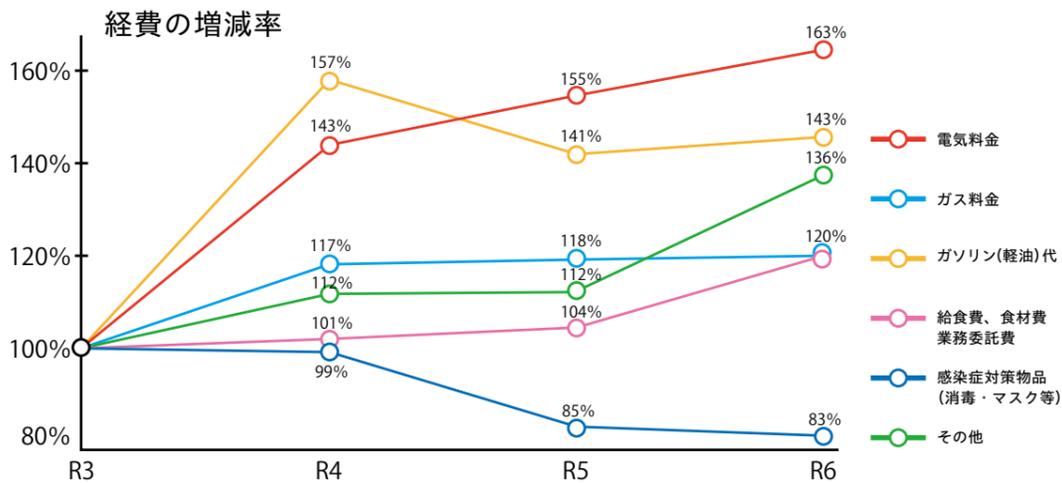
れました。他には、人員確保ができないため、事業を縮小したという声もあり、経営状況の厳しさや人材確保・定着の難しさにより、府民の暮らしを支える福祉サービスにも影響が出始めています。社会福祉法人・福祉施設の経営を守り、地域の福祉を支えるためには、早急な処遇改善と物価高騰対策支援等の財政支援の継続が必要です。

利用者数は減少しても、 経費は増加

アンケート結果では、提供した食数・利用者数については、少子化に伴う保育利用児童数の減少や施設の競争激化による利用者数の減少により、すべての種別において減少しています。一方、利用者数が減少しても水光熱費等の負担は変わらず、また、食材費等の高騰により、一食当たりの食事に係る費用が増加していることから、経費は感染症対策物品以外のすべての項目で増加しており、長期化する物価高騰の影響が法人・施設の経営に大きく影響していることが分かります。

これまで京都府社協においては、京都府社会福祉法人経営者協議会など福祉施設を運営する団体等と連携しながら、京都府を通じて社会福祉法人・施設

設の実態を伝え、福祉予算の拡充を要請してきました。京都府社協では、関係団体とともに京都府や国に対して引き続き要望を続けることで、京都の福祉を守る取り組みを続けてまいります。



アンケートの声

アンケートの自由記述欄には、社会福祉法人・施設の経営状況に関する次のような声が寄せられています。

食材費の高騰に対応するため、使う食材を生野菜から冷凍野菜に変更する等、経費を節約し、利用者負担が増えないように工夫をしている。しかし、パッド等の介護用品や洗濯等の委託費も値上がりしており、物価高騰が経営を大きく圧迫している。これ以上、何を削れるか頭を悩ませている。

給食業務委託金額を維持継続するために、委託会社の負担軽減となるよう調理済み食品を取り入れたことで、食材費が増加した。また、委託会社の負担軽減のために献立内容の工夫や対応策にも協力しており、現場の業務負担が増えている。

質の高いサービスを提供するためには、人材の確保と定着が必要。物価が高騰しているため、職員の生活を守るために給与を上げたいが、実際は難しい。若手育成のために将来性も夢もある業界でありたいが、現実には後ろ向きな状況。

物価だけではなく、他産業との賃金格差の解消と最低賃金に連動した財源の確保が必要。人件費の削減等、処遇にも影響がでており、また、他業種の求人の増加もあり他業種へ転職する者も出ている。一施設の努力で出来ることには限界がある。

利用者の安心・安全な環境を守るためには光熱費・衛生費・給食費を過度に減額できない。現在の利用者負担では、必要な栄養バランスや食事を維持することができない。また、気温上昇に伴う熱中症対策のための設備投資が必要だが、財源が不足している。このままでは利用者の安心・安全を守ることができない。

介護ロボット・ICT等、生産性の向上に取り組みたいが、設備投資をする余裕がない。

物価高騰を見据え、職員研修、給食の取引業者の見直し、節電、省エネ機器への変更等、様々な策を講じているが、それでも経費は増加し続けている。感覚的には、掛かっている経費以上に法人の負担は増加している。

厳しい経営状況に対しては、多くの法人・施設が節電や省エネ機械の導入等による工夫や内部留保の取崩しにより経営を継続しています。また、「利用者負担金を改定した」と回答した法人が28.5%と昨年度調査時点と比較して16.4ポイント増加しており、利用者負担を見直さなければならぬ厳しい状況となっているという結果でした。物価高騰の影響により、府民の暮

利用者負担を 改定せざるを得ない状況に

全国社会福祉法人経営者協議会の資料における職種別平均賃金では、全産業平均と比較して保育士は4.8万円、介護分野の職員は6.9万円賃金が低く、賃金差が拡大しているとされています。アンケートでも、「様々な媒体を利用して職員募集をしているが、不十分な状況が続いている」、「他業種への転職等、離職者が出ている」等、人材の確保、定着の難しさに関する声が寄せら

求められる処遇改善と 財政支援

厳しい状況であると回答しています。（図1参照）。
法人全体の収支については、法人施設の36.7%が「赤字経営であった」、25.3%が「収支均衡はほぼ均衡している」と回答しています（図2参照）。分野別では、高齡分野の50.8%、障害分野の43.9%が赤字経営という大変厳しい結果でした。
らしも厳しさを増しているため、法人・施設においては使用する食材の変更や事業縮小等、経営努力によりサービスの質を守ってきました。しかし、アンケートには「これ以上、削減できる経費はない」という声も多く寄せられており、法人・施設の努力だけでは質の高いサービスの維持が難しい状況になっていくことが分かりました。

「明治から現代へ つながる障害福祉の歴史」

白川学園

京都府内の社会福祉法人の歴史や成り立ちを紹介する「施設の歴史」。第3回目は、京都市の鷹峯地区で明治時代より障害福祉の原点となる活動に取り組んでこられ、日本で2番目に設立された「知的障害児施設」の白川学園を紹介します。

はじめに

白川学園は、障害児入所施設から始まり、現在では成人も利用できる障害者支援施設を併設しています。

障害者支援施設とは、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）第5条11項で定められ、障害者の暮らしの場や日常生活上のケアを提供する施設です。

また、障害児入所施設とは児童福祉法第42条で定められ、障害児の暮らしの場や日常生活上のケアを提供するとともに、地域での自立した生活につながるよう支援を提供する施設です。

これまでのあゆみ

創立者である脇田良吉氏は、明治31年に京都市淳風尋常小学校の教員として子どもたちに接する中で、学業不振



脇田良吉・てつ夫妻

の子どもたちが多くいることに気づきます。当時は、小学校の義務教育が進み、1クラス約70人と多い上に教員不足もあり、子どもたちに十分な教育が届きにくい状況にありました。

そうした状況を踏まえて、教員仲間とともに「春風倶楽部」を開設し、学業不振の子どもへの補習学習を始めましたが、始業前か放課後に行っていたため、子どもたちが疲労しかえって負担になっていました。そのような中、ある生徒を下宿に引き取り、寝食を共にすることが教育効果につながることに気づきました。温かい家庭におい

創業者の思いは、職員同士が語り合う中で受け継がれており、職員が共通の使命感を持ち、支援にあたっていることは職員の定着にもつながっている。当法人では、幼児期から成人期まで長期で関わる利用者も少なくなく、児童期から利用者のことを知っている職員も含めて支援のあり方について話し合うことが、関わりが難しい利用者の支援にも活かされている」と脇田宣理事長は語ります。

などり学園でしたが、通園している子どもたちの家庭は様々な困りごとを抱えやすいです。当初、児童通園施設に求められていた「家族支援」とは、相談や助言など精神的な支援が中心と考えられていました。保育所での障害幼児の受け入れが一般的ではなかった時代、ある時に職員より「障害のある子どもを持つ独り親世帯は就労の間、子どもを預かってもらう所がなく、子どもを施設入所させざるを得ないことも珍しくない。子どもたちが家庭から離れずに済む時間外保育を始めることはできないか」と提案がありました。この提案をきっかけにはじめた延長保育は、現在では加算等制度に反映されており、目の前の子どものニーズに寄り添うことで、家族の絆を守ることにつながりました。脇田宣理事長は、今後も家庭状況や生活様式の多様化といった社会状況の変化にいち早く気づき、時代の先駆けの支援を目指し、取り組んでいきたいと話されていました。

次世代への継承とこれからの福祉への期待

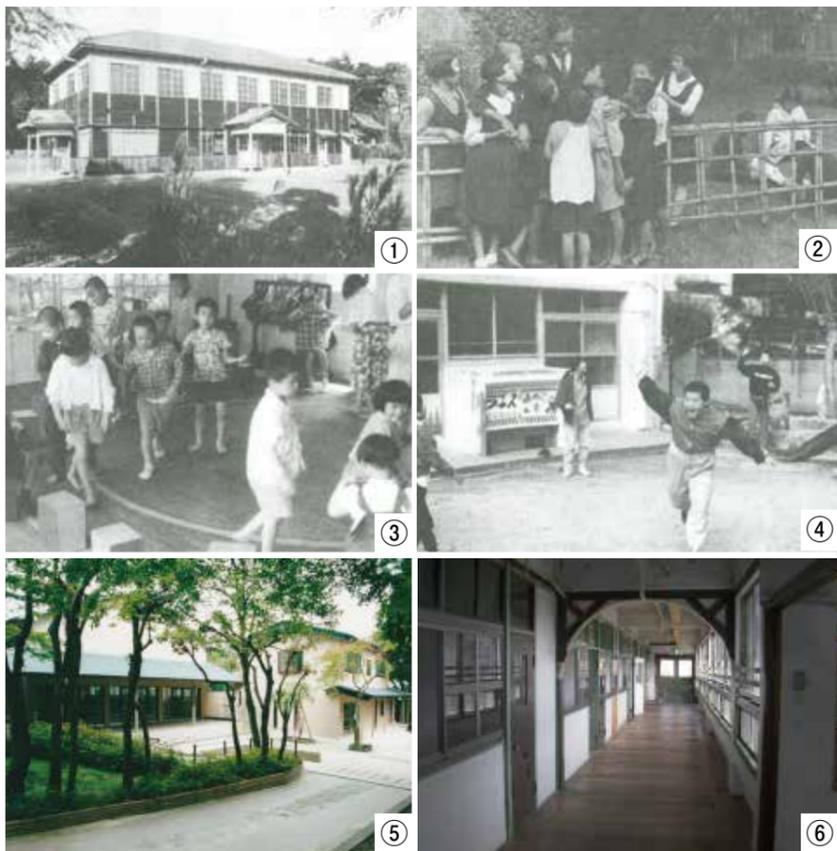
「目の前の子どもたちのためにできることがあればやってみよう」という

府社協としても、チャレンジ精神を持って自分たちの支援を進めていく福祉に向き合う人々たちを応援し、そういった社会福祉法人の活動を国や行政等に汲み取ってもらえるよう働きかけていく必要があると再確認しました。

※参考文献「白川学園100年のあゆみ」

白川学園 年表

- 1905 教員仲間と共に構内に教育研究組織「春風倶楽部」を開設。対象を近隣他校の児童まで拡大し、補習授業を実施。
- 1909 京都府教育会の付属事業として「白川学園」が百萬遍・知恩寺山内に誕生。開設時の園児は3名。
- 1912 白川学園、脇田良吉氏の個人経営に移管。
- 1925 園児増加に伴い、現在地である鷹峯に園舎新設移転。
- 1945 戦局悪化により身寄りのない3名を除き、園児すべて家庭引取りに。事実上の休園に追い込まれるも、終戦により再開。
- 1946 託児所を「鷹ヶ峰保育園」と命名し、定員30名とする。
- 1951 鷹ヶ峰保育園で「発達遅滞幼児」3名を試験的に受け入れ、以後、年次増加。
- 1955 日本初の試みとして、鷹ヶ峰保育園定員60名中30名を「発達遅滞幼児」の「特別保育」にあてる。
- 1960 鷹ヶ峰保育園を廃止し、日本初の「発達遅滞幼児」の通園施設「ひなどり学園」となる(定員40名)。
- 1988 ひなどり学園、前年度より試行の時間外保育や宿泊保育、学齡児の放課後預かりなど家庭事情に応じた私的支援を本格実施。
- 2021 京都市と成人入所者の対応について協議し、成人棟新築実施を目指す。
- 2023 白川学園を児童16名、成人40名の併設型施設に再編し、新たなスタートを切る。成人入所者の生活拠点新棟へ移す。



①昭和館-W.ヴォーリス設計-(1929年) ②脇田良吉氏と園児たち
③ひなどり(1954年) ④園庭で(1997年)
⑤礼拝堂(2000年)、春風館(2002年) ⑥園内の様子

時代の先駆けの支援を目指して

て、一定の教育方針のもとに養育すれば、よい結果が見られると考えるようになったことが白川学園設立のきっかけとなり、設立以降、「家庭的・家族的」を重視されています。

対し、脇田良吉氏は、毎日、一人ひとりの児童記録をつけ、その子に合った支援方法について子どもたちと一緒に悩み、苦しみながら支援を続けました。戦時中は、事実上の休園となりますが、終戦後に地域住民からの要望もあり、現在の「ひなどり学園」の前身となる託児所「鷹ヶ峰保育園」を開設。その後、日本初の試みとして「発達遅滞幼児」の特別保育も実施されました。令和5年度から白川学園は子どもと成人の併設施設に再編し、新たにスタートされています。

特に脇田良吉氏は、「適才教育」という理念のもと、児童一人ひとりの能力や障害特性に応じた教育のあり方や活動の場を重視しており、その考えは現在の発達教育や個別支援に通じています。

「施設の仕事は、悩むことも多いが、やり続けることで国や行政等に理解してもらおうことが大きなモチベーションにつながる」と脇田宣理事長は語りま

地域で人と人がつながる こども食堂・居場所づくりをともに

本会では、京都府の「きょうとこどもの城づくり事業」の委託を受け、きょうとフードセンターを平成29年3月より運営しています。企業や地元の農家等からいただいた食品・寄付等を活用し、食を通じたこども食堂、居場所運営支援を行っています。

「お米が足りない!」 物価高騰に米不足の 2024年夏

「こどもたちにおなかいっぱい食べてほしいのですが、お米の在庫が減ってきたのでどうしようかと悩んでいます」、「居場所参加者も増えており、今

月を乗り切れるお米が欲しいです」
これらは、本センターへ8月に寄せられた声です。この夏、全国各地の市場からお米が品薄状態となりました。

令和5年度に各地で発生した大雨や高温被害による生産量の減少に加え、今年8月に発令された南海トラフ地震臨時情報により買い込み需要が発生した



以前は1升五合でしたが最近では2升必要となりました。減るのが早くなったと思います。今回、お米をいただき、当分心配せずに済みます。

ことなどによるものです。そのためこども食堂でもお米不足となり、確保の苦しさについて多くの団体から声が寄せられました。

また、お米に限らず昨今の物価高騰により、地域のこども食堂等では、食料の確保が大変困難となっています。

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえのこども食堂の現状&困りごとアンケート調査(2024年7月実施)では、物価上昇による影響を感じているこども食堂は88.5%となっており、困りごととしては、運営資金の不足、担い手不足に次いで、食料不足があげられています。もらってうれいしい食料・物品では、米が1位、2位お菓子、3位おかず類(肉、魚、加工品等)と続き、物価上昇や米不足がこども食堂に影響を与えていることがうかがえます。

本センターでは、今回の米不足に対して、政府備蓄米等の情報提供をする

とともに、申請方法のアドバイスをはじめ活動団体へ個別支援を行うなど、米や食料が府内のこども食堂・居場所等に広く配布できるよう取り組みました。

さまざまな企業・団体の 思いをつなぐ

本センターでは、今年度から安定的なこども食堂の運営を支援するため、定期的に食品を提供していただける企業・商店との連携を強化し、食品提供者とこども食堂等運営団体とのマッチング等取り組みを進めています。

企業からは、生産工程での包装の破損や印字ズレで店頭に出荷できなくなった商品や出荷期限の過ぎた商品等提供、こども食堂へ何か支援できないかという相談などがあります。また、社員へ寄付を呼びかけ、集まった食品を府内のこども食堂へと届けてほしい

企業の取り組み

お客様とともに取り組む こども食堂等への支援 株式会社ライフコーポレーション

株式会社ライフコーポレーションでは、「着る機会がなくなった衣料品」を集めて、リサイクルし、その収益を活用してこども食堂への支援につなげるという取り組みが行われました。今回の取り組みでは、お菓子を提供いただきました。いただいたお菓子は、ハロウィンの時期に活用いただけるようにお菓子セットとして、京都府内のこども食堂へ届けました。



ハロウィンのお菓子セットの案内チラシ。たくさんのお子どもたちが喜んでくれました。



社員が取り組むこども 食堂等の応援・支援 NTT西日本グループ

西日本電話株式会社などNTT西日本グループでは、SDGs月間に社員がフードドライブを行い、こども食堂等への支援につなげるという取り組みが行われました。取り組みを進めるにあたっては、事前に社内でも食堂等について学ぶ機会をもたれ、社員の方々の関心も協力も高まったとお話がありました。今回いただいた食品、調味料や文房具等は、クリスマス等年末年始の時期に活用いただけるようにセットし、京都府内のこども食堂等へ届ける予定です。

令和6年寄贈
式の様子。
(10月24日)



いただいた食
材・文房具等
をこども食堂
等で配布。
(令和5年)



という相談もあります。今年度は、27企業・団体(8月末時点)から提供をいただき、京都府内で活動することも食堂やこどもの居場所、児童養護施設等に配布しました。

活動している人と活動を応援したい人の思いをつなぎ、京都全体でこどもたちが生き生きと育つ場づくりを進めていきます。



いつもながら、おやつは大歓迎です。大勢参加している毎週の子どもの居場所提供させていただきました。おやつはみんな大喜びです。

活動報告

第73回

京都府社会福祉大会を開催しました

社会福祉の増進と ボランティア活動の 活性化を図る

令和6年9月10日（火）、京都テ
ルサにおいて、第73回京都府社会福
祉大会（京都府・京都府社会福祉協
議会・京都府共同募金会・京都ボラ
ンティア協会共催）を開催し、京都
府内全域から約400名の方が参加
されました。

オープニングセレモニーでは、京
都府人権啓発イメージソング『世界
がひとつの家族のように』の作詞家
である鮎川めぐみ氏より、イメージ
ソング作成の経緯が紹介され、会場
の皆さんと手話を交えて歌い、改め
て人権、人の尊厳について考える機
会となりました。

主催者挨拶では、西脇隆俊知事か
ら昨年度よりスタートした京都府総
とらゆるよう、福祉サービスのより一
層の拡充を図るとともに、地域で人
と人が寄り添い、支え合うネット
ワークを構築していく旨の大会決議
文が採択されました。

また、2階のロビーでは、京都ほっ
とはあとセンター会員の福祉事業所
による物品販売や京都府災害ボラン
ティアセンターによる能登半島地震
被災地支援等のパネル展示が行われ
多くの来場された方々が見入ってお
られました。

本会としても、受賞された皆様を
始め、地域福祉活動を行っておられ
る方々とともに京都府域での地域福
祉の充実や地域課題の解決に向け、
様々な活動を展開していきたいと考
えております。



京都府災害ボランティアセンター運営委員に
京都府知事より感謝状授与

合計画に基づき、誰もが未来に夢を
希望を持てるあたたかい京都づくり
の実現に向けて、地域で安定した生



西脇隆俊京都府知事の挨拶

受賞者からの「コメント」

福知山市
豊富地区民生児童委員協議会
会長 牧 孝年 様

主に、ひとり暮らし高齢者や
高齢世帯への定期的な見守り訪
問活動を行っています。訪問は
民生児童委員として最も大切な
活動だと考えており、変化がな
いか様子を確認しながら、困っ
たことがあればいつでも相談く
ださいと伝えていきます。常に住
民の皆さんにとって身近な存在
でありたいですし、活動のやり
がいや楽しさも広く発信してい
きたいと思っております。



活が営めるよう、きめ細やかな支援
体制を構築するなど全力で取り組ん
でいくとのお話がありました。

また、京都府社協小畑英明会長か
ら人口減少や人と人とのつながりの
希薄化など地域福祉を取り巻く環境
が変化している中、「つながりを生
かして誰もが尊厳を持って生きるこ
とができる社会」を目指して、京都
府の全ての社会福祉関係者の皆様と
ともに誰一人取り残されない地域共
生社会の実現に向けて取り組んでい



京都府社協小畑英明会長の挨拶

京都府人権啓発イメージソング 「世界がひとつの 家族のように」



曲を紹介する作詞家鮎川めぐみさん

1948年の国連総会で採択
された「すべての人間は、生ま
れながらにして自由であり、か
つ、尊厳と権利とについて平等
である」この第1条から始ま
る「世界人権宣言」の65周年の
節目である2013年に制作。
人権が難しいものでなく、一人
一人により身近なものとなるよ
う、親しみやすい歌を通じて、
少しでも人権に触れてほしいと
の考えのもと、その想いに賛同
された作詞家鮎川めぐみさんと
京都にゆかりの深い作曲家の
千住明さんのお二人の手によっ
て生まれた曲です。



詳細はこちら <https://kyoto-jinken.net/imagesong/campaign/>

くと挨拶がありました。

社会福祉、ボランティアに 功績のあった 個人、団体を表彰

表彰式典では、長年にわたり社会
福祉事業に貢献された民生委員・児
童委員、社会福祉施設、団体、社協
の役員の方々やボランティアとし
て活躍された方、また、多額の寄付
やご協力いただいた方々が表彰状
・感謝状を受けられました。知事
表彰・感謝では、231の個人・団体
・府共募表彰・感謝は、395の個人・
団体、府共募表彰・感謝は、260
の個人・団体、京都ボランティア協
会表彰は、8の個人へ表彰状・感謝
状が贈呈されました。

式典の最後には、京都ボランティ
ア協会竹下義樹理事長より誰もが住
み慣れた地域で安心して暮らし続け

3事業所から物品の販売

各事業所から趣向を凝らした商品が
販売されました。関心ある方はぜひ
QRコードを読み取ってください。

サリー (アクセサリー等)



たなべ緑の風作業所 (パン)



ひこばえ (コーヒー豆)





笑顔を忘れず、
子どもたちに
寄り添っていききたい

八雲保育園 保育士 ● 由里 慶子さん

◆この職場を選んだ決め手は？

いろいろなご縁が重なって、ここを紹介していただきました。

◆職場のいいところ

チームワーク抜群です。クラスの垣根を越えて職員みんなで保育をしているので、心強いですし、安心感があります。いつも刺激をもらっています。

◆休日の過ごし方

小学5年生になる子どもの野球の応援に行って、元気をもらっています。

【施設名】(福)河守福祉会 八雲保育園
【場所】京都府舞鶴市字丸田小字宮の前 27-1
【URL】http://yakumo-hoikuen.com/
【TEL】0773-82-0278

「幼少期に通っていた幼稚園の先生のが大好きで、『私も生みたいになりたい』と子どもの頃からずっと思っていたんです」と話す由里慶子さん。その想いは成長しても変わらず、短大で保育について学び、卒業後幼稚園の先生として働き始めます。その後、もっと小さい年齢から子どものことを見たいと決意し、八雲保育園に転職します。現在は一歳児クラスの担任として、子どもたちの自主性を尊重しながら、日々成長を見守っています。

「二人一人の性格やできることは違います。子どもたちと接するときは、常に笑顔で子ども目の視線に立って、その子の気持ちに丁寧に寄り添うことを大切にしています」
保護者の方からは「子どもたちのお世話は大変でしょう」と言われることが多いようですが、由里さんは俯瞰的な視点を持って、楽しみながら子どもたちと接しているので、大変と感じることはないそうです。むしろ、子どもたちが日に日に成長する姿を間近で見ることができ保育士は「感動をもたれる仕事」と話します。
「これからも笑顔を忘れずに、子どもたちに寄り添っていきける保育士でありたいと思います」

つながりの「かたち」

「ともに生きる社会をつくる」

さまざまな人が暮らす地域で、多様性を認め合い、思いやりを大切にする地域づくりの取り組みを紹介します。

Vol.2 福祉教育×外国人

暮らしを知る・ともに学ぶ 福祉教育×外国人

「ミンガラーパー」(ミンガラーパー)「こんにちは」と学生たちの前で、笑顔であいさつするウェイさん。これは、八幡市社協で行われた中高生を対象にしたサマースクールの一コマです。
八幡市社協では、7月29日(月)から8月2日(金)の5日間、八幡市内に在住又は在学する12歳から18歳の方を対象に、「夏のちょボラ学校」を開催。聴覚障害のある方や失語症の方と、ホワイトボード作りやパン作りを通じて交流するなど、地域で暮らす方々と協力して様々な体験が企画されました。2日目に開催された「welcome」～ミャンマーからこんにちは～では、八幡市に住む外国人について知ることを目的に、キンサンウェイさんとテイラインさん夫妻をゲストに招き、ミャンマーの言語や遊び、食べ物、宗教など、日本とは異なる文化を学びました。



取り組みを始めたきっかけ 「日本に1つも戻らなかったから 自分も1つ返したい」

夫ラインさんとの結婚を機に来日したウェイさんは、飲食店でのアルバイトをきっかけに少しずつ日本語を覚えていきました。八幡市のボランティア活動団体「八幡市にほんご教室 世界はテマン」に通うことでより多くの日本語を習得し、またボランティア活動団体の方々と交流も深まっていきました。ウェイさんは、「日本に1つも戻らなかったから自分も1つ返したい」と言います。「日本語を教えるも戻った分、自分にできることがしたい」とボランティア活動団体の方に相談し、八幡市社協と繋がりました。現在は、八幡市社協が運営する八寿園アイサービスで週1回レクリエーションの時間にボランティアとして活動しています。ボランティアを始められた当時について、八幡市社協の福富儀夫さんは「ウェイさんは、ボランティア2回目のときには体操で歌



う『北国の春』の歌詞を覚えてくれた」と振り返ります。「『できることをしたい』と積極的にコミュニケーションを図ろうとする思いが伝わり、利用者の方や職員の方とすぐに打ち解け、一緒に笑顔で同じ時間を過ごされていきました」と振り返ります。
「夏のちょボラ学校」に参加し、ウェイさんの話を聞いた中学生は「ミャンマーの文化は日本みたいなのところも、違うところも色々あっておもしろかった」と気づきの声がありました。
今回、企画・運営を担当した福富さんは「ちょボラ学校参加者の感想から、これまで出会ったことがなくても多くの方とコミュニケーションする楽しさと様々な立場や思いをもっている人が地域にいてることを理解し『思いやり』『助け合い』を考えるきっかけになる」と感じたと言います。「地域で暮らす外国人ではなく、ウェイさんの大切にしていくこと、好きなことなどを知ること、それぞれの文化の違いなどがあっても八幡市で暮らす同じ住民なんだと感じる機会が大切。住民同士が『出会い』『対話』する機会をこれからもつくっていききたい」と語りました。

同じ地域で暮らす住民として 出会い、知る

京都府社会福祉協議会からのお知らせ

福知山市福祉職場就職フェア

日程 12月14日(土)
13:00～13:30 セミナー
「プロから学ぶ!認知症介護ケア」
13:30～15:30 合同就職説明会

会場 市民交流プラザふくちやま3階 市民交流スペース

対象 学生、一般求職者(未経験者も大歓迎)

問合せ先

福祉人材課(京都府福祉人材・研修センター)
TEL:075-252-6297
https://fukujob.kyoshakyo.or.jp



令和6年度 施設で取り組む
クレーム対応力向上研修

日程 12月24日(火) 10:20～16:30

開催方法 Zoom を活用したオンライン

対象 社会福祉施設職員・市町村社協職員の
チームリーダー・管理職員

問合せ先

研修課(京都府福祉人材・研修センター)
TEL:075-252-6296

X(旧Twitter)
フォローをお願いします!

フォローをお願いします!

@KyoShakyo_

で検索



研修課ではさまざまな研修を企画・
実施中です。令和6年度に実施予定の
研修は右記二次元コードよりご覧ください。

HP https://www.kyoshakyo.or.jp/
topics/news/9286



現在、募集中の研修は
右記二次元コードよりご覧ください。

HP https://www.kyoshakyo.or.jp/
topics/boshyu



●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

https://www.kyoshakyo.or.jp 京都府社協

検索



本紙は、共同募金の
配分金によって
つくられています。

令和6年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!

◆加入対象は、社協の会員である
社会福祉法人等が運営する社会
福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

保険期間1年

▶年額保険料(掛金)

定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
100名以降1名~10名増ごと	1,500円

基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】
定員1名あたり
入所: 1,300円
通所: 1,390円

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 職員等の補償
- プラン4 法人役員等の補償



●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定期行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)